

- 指示コメント（指示種別が薬局）（RPSETSIJ\_9）

#### ■ インターフェース

**string IPrescriptionTemplate.SupplyInstruction [get;]**

セット処方全体の調剤に対する指示コメント。

### 1.3.6. 投薬・服用指示コメント

#### ■ 定義

セット処方全体の投薬・服用(患者向け)に対するフリーテキストによる指示コメント。

#### ■ 現行対応項目:

- 指示コメント（指示種別が患者）（RPSETSIJ\_9）

#### ■ インターフェース

**string IPrescriptionTemplate.AdministrationInstruction [get;]**

セット処方全体の投薬・服用に対する指示コメント。

### 1.3.7. セット処方使用可能医師情報

#### ■ 定義

セット処方使用可能医師情報。詳細は、〇〇〇節セット処方使用可能医師情報参照。

#### ■ 現行対応項目:

- 〇〇〇節参照。

#### ■ インターフェース

**bool IPrescriptionTemplate.IsAvailableByPhysician [get;]**

セット処方利用可能医師の有無を示す bool 値を取得する。

**IPhysician IPrescriptionTemplate.Physician [get;]**

セット処方利用可能医師情報を、医師インターフェース IPhysician として取得する。詳細は〇〇〇節セット処方利用可能医師情報参照。

### 1.3.8. セット処方使用可能診療科情報

■定義

セット処方を使用できる診療科情報。詳細は、〇〇〇節診察情報参照。

■現行対応項目:

- 〇〇〇節参照。

■ インターフェース

**bool IPrescriptionTemplate.IsAvailableInDepartment [get;]**

セット処方利用可能の診療科の有無を示す bool 値を取得する。

**IEncounter IPrescriptionTemplate.Department [get;]**

セット処方使用可能診療科情報を、入力者インターフェース IDepartment として取得する。詳細は〇〇〇節セット処方使用可能診療科情報参照。

### 1.3.9. セット処方 Rp 情報

■定義

セット処方に含まれるひとつの Rp の情報。詳細は、〇〇〇節のセット処方 Rp 情報参照。

■現行対応項目:

- なし

■インターフェース

**int IPrescriptionTemplate.Count [get;]**

セット処方に含まれる Rp 数を取得する。

**IPrescriptionTemplateItemGroup IPrescriptionTemplate.ItemGroupAt (int i)**

セット処方に含まれる、i 番目の Rp 情報を、IPrescriptionTemplateItemGroup インターフェースとして取得する。対応する Rp が存在しない場合には null を返す。

## 1.4. セット処方 Rp 情報

セット処方の 1Rp 情報を表す。現行システムの考え方では、処方箋のひとつの Rp には、複数の薬剤とその薬剤に共通する 1つの用法が含まれる。これは、薬剤の処方量が用法ではなく、薬剤の情報に含まれるため、ひとつの Rp 内で用法は共通となるからである。しかし、HL7 のモデルで表現すると、薬剤の投与量は薬剤ではなく用法として表現されるため、ひとつの Rp 内でも用法は薬剤毎に異なり、薬剤と用法は 1対1 の関係となる。Rp はこの薬剤と用法、そして薬剤情報に関連する薬剤払い出し情報の組（ここでは処方項目と呼ぶ）のコレクションとして表現される。

### 1.4.1. セット処方 Rp テキスト

#### ■定義

セット処方の 1Rp のテキスト表現。人が見て理解するために提供される。

#### ■現行対応項目:

- なし

#### ■インターフェース

```
string IPrescriptionTemplateItemGroup.Text [get;]
```

セット処方の 1Rp のテキスト表現を取得する。値がない場合には null を返す。

### 1.4.2. セット処方 Rp 内処方項目情報

#### ■定義

セット処方 1Rp に含まれるひとつの処方項目情報。詳細は、〇〇〇節の処方箋 Rp 内項目情報参照。

#### ■現行対応項目:

- なし

#### ■インターフェース

```
int IPrescriptionTemplateItemGroup.Count [get;]
```

セット処方 1Rp に含まれる処方項目数を取得する。

**IPrescriptionTemplateItem IPrescriptionTemplateItemGroup.ItemAt(int  
i)**

セット処方 1Rp に含まれる、i 番目の処方項目情報を、IPrescriptionTemplateItem インターフェースとして取得する。対応する処方項目が存在しない場合には null を返す。

## 1.5. セット処方 Rp 内処方項目情報

セット処方の 1Rp 内の項目を表す。現行システムの考え方では、処方箋のひとつの Rp には、複数の薬剤とその薬剤に共通する 1つの用法が含まれる。これは、薬剤の処方量が用法ではなく、薬剤の情報に含まれるため、ひとつの Rp 内で用法は共通となるからである。しかし、HL7 のモデルで表現すると、薬剤の投与量は薬剤ではなく用法として表現されるため、ひとつの Rp 内でも用法は薬剤毎に異なり、薬剤と用法は 1対1 の関係となる。処方項目はこの薬剤と用法、そして薬剤情報に関連する薬剤払い出し情報の組として表現される。

### 1.5.1. 処方項目識別情報

#### ■定義

セット処方内の 1Rp 内の 1 処方項目を一意に識別するための ID。現行では、「剤内シーケンス」によって識別されるが、HL7 メッセージで表現する場合、SubstanceAdministration Act を一意に識別するための id が必要となる。

#### ■現行対応項目:

- 剤内シーケンス (RPSETYAK\_6)

#### ■インターフェース

```
int IPrescriptionTemplateItem.SequenceNumber [get;]
```

セット処方 Rp に含まれる処方項目の剤内シーケンス番号を取得する。

### 1.5.2. 薬剤情報

#### ■定義

処方項目に含まれる 1 薬剤の情報。詳細は、〇〇〇節薬剤情報参照。

#### ■現行対応項目:

- 〇〇〇節参照。

#### ■インターフェース

```
IMedicationDrug IPrescriptionTemplateItem.Drug [get;]
```

処方項目に含まれる 1 薬剤の情報を、IMedicationDrug インターフェースとして取得す

る。詳細は〇〇〇節薬剤情報参照。

### 1.5.3. 薬剤払い出し情報

#### ■定義

処方項目に含まれる薬剤払い出し情報。詳細は、〇〇〇節薬剤払い出し情報参照。

#### ■現行対応項目:

- 〇〇〇節参照。

#### ■インターフェース

**IMedicationSupply IPrescriptionTemplateItem.Supply [get;]**

処方項目に含まれる薬剤の払い出し情報を、IMedicationSupply インターフェースとして取得する。詳細は〇〇〇節薬剤払い出し情報参照。

### 1.5.4. 用法情報

#### ■定義

処方項目に含まれる用法情報。詳細は、〇〇〇節用法情報参照。

#### ■現行対応項目:

- 〇〇〇節参照。

#### ■インターフェース

**IMedicationAdministration IPrescriptionTemplateItem.Administration [get;]**

処方項目に含まれる用法情報を、IMedicationAdministration インターフェースとして取得する。詳細は〇〇〇節用法情報参照。

## 1.6. 薬剤情報

処方項目に含まれる、薬剤に関する情報。

### 1.6.1. 薬品名称

#### ■定義

薬品の名称(商品名)。

#### ■現行対応項目:

- なし

#### ■インターフェース

```
string IMedicationDrug.CommercialName [get;]
```

薬品の商品名を取得する。値がない場合には null を返す。

### 1.6.2. 薬品コード

#### ■定義

薬品コード。

ValueSet: Kobe.Pharmacy.ClinicalDrugCode  
を使用する。CE 型。

#### ■現行対応項目:

- 薬品コード (RPSETYAK\_7)

#### ■インターフェース

```
object IMedicationDrug.Code [get;]
```

薬品コードを object として取得する。ValueSet: Kobe.Pharmacy.ClinicalDrugCode  
で定義されたコード値で、実際の型は CE 型である。

コードの文字列表現を得たい場合には、

```
string ClinicalDrugCode.Singleton.ToString(object);
```

を使用する。

コードの表示用文字列を得たい場合には、

```
string ClinicalDrugCode.Singleton.DisplayNameOf(object);
```

を使用する。

特定のコードとの等価性を調べる場合には、

```
bool ClinicalDrugCode.Singleton.<Get property for a specific code>.Equals(object);
```

を使用する。

### 1.6.3. 単位情報

#### ■定義

薬品の単位コードを取得する。薬価単位と力価単位の 2 種類あり、薬価単位は、薬価計算で使用される単位で、注射以外の薬剤のオーダー時に使用する。力価単位は、力価を明示するときに使用される単位で、注射オーダーは力価単位を使用する。

ValueSet: Kobe.Pharmacy.UnifiedCodeForUnitOfMeasuer  
を使用する。CS 型。

#### ■現行対応項目:

- 単位区分 (RPSETYAK\_9)
- 単位コード (RPSETYAK\_10)

#### ■インターフェース

```
object IMedicationDrug.UnitCodeForDrugPrice [get;]
```

薬品の薬価単位コードを object として取得する。

ValueSet: Kobe.Pharmacy.UnifiedCodeForUnitOfMeasure で定義されたコード値で、実際の型は CS 型である。

コードの文字列表現を得たい場合には、

```
string UnifiedCodeForUnitOfMeasure.Singleton.ToString(object);
```

を使用する。

コードの表示用文字列を得たい場合には、

```
string
```

```
UnifiedCodeForUnitOfMeasure.Singleton.DisplayNameOf(object);
```

を使用する。

特定のコードとの等価性を調べる場合には、

```
bool UnifiedCodeForUnitOfMeasure.Singleton.<Get property for a specific code>.Equals(object);
```

を使用する。



**object IMedicationDrug.UnitCodeForStrength [get;]**

薬品の力価単位コードを object として取得する。

ValueSet: `Kobe.Pharmacy.UnifiedCodeForUnitOfMeasure` で定義されたコード値で、実際の型は CS 型である。

## 1.7. 薬剤払い出し情報

薬剤の払い出し情報。薬局に対する指示を含む。

### 1.7.1. 払い出し総量

#### ■定義

薬剤の払い出し総量。単位は、`IMedicationDrug.UnitCodeForDrugPrice` で指定される単位を使用する。(→正しいか? 明示的に単位も設定できるようにすべきか?) 必須属性で省略できないため、明示的に `Null` インスタンスを指定したい場合には `double.NaN` を使う。

(HL7 必須属性)

#### ■現行対応項目:

- 処方数量(全量) (RPSETYAK\_8)。

#### ■インターフェース

**double IMedicationSupply.TotalDrugQuantity [get;]**

薬品の払い出し総量を取得する。値がない場合には `new double()` を返す。明示的に `Null` 値を指定する場合には `double.NaN` を返す。

### 1.7.2. 払い出し指示コメント

#### ■定義

処方箋内のある特定の薬剤の払い出しに対する薬局向けコメント。

#### ■現行対応項目:

- 指示種別 (RPSETSIJ\_8) (薬局)
- 指示コメント (RPSETSIJ\_9)

#### ■インターフェース

**string IMedicationSupply.Instruction [get;]**

特定の薬剤のための薬局向け指示コメントを取得する。値がない場合には `null` を返す。

### 1.7.3. 粉砕指示

#### ■定義

薬を提供するときに粉碎するかどうかを指定する指示。メッセージ中には指示有、指示無し  
の2種類の値をとるコード化値として表現される。

#### ■現行対応項目:

- 粉碎サイン (RPSETYAK\_13)

#### ■インターフェース

```
bool IMedicationSupply.HasCrushInstruction [get;]
```

粉碎指示の有無を示す Bool 値を取得する。

### 1.7.4. 分割指示

#### ■定義

薬を提供するときに分割するかどうかを指定する指示。メッセージ中には指示有、指示無し  
の2種類の値をとるコード化値として表現される。

#### ■現行対応項目:

- 粉碎サイン (RPSETYAK\_13)

#### ■インターフェース

```
bool IMedicationSupply.HasBreakInstruction [get;]
```

分割指示の有無を示す Bool 値を取得する。

### 1.7.5. 混合指示

#### ■定義

薬を提供するときに混合するかどうかを指定する指示。メッセージ中には指示有、指示無し  
の2種類の値をとるコード化値として表現される。現行では Rp 単位の指示であるが、薬  
剤単位で指示を指定する。

#### ■現行対応項目:

- Mix 指示 (RPSETYOH\_28)

#### ■インターフェース

```
bool IMedicationSupply.HasMixInstruction [get;]
```

混合指示の有無を示す Bool 値を取得する。

### 1.7.6. 経管チューブ指示

#### ■定義

薬を提供するときに経管チューブと一緒に提供するかどうかを指定する指示。メッセージ中には指示有、指示無しの2種類の値をとるコード化値として表現される。現行では Rp 単位の指示であるが、薬剤単位で指示を指定する。

#### ■現行対応項目:

- Mix 指示 (RPSETYOH\_28)

#### ■インターフェース

**bool IMedicationSupply.HasFeedingTubeInstruction [get;]**

経管チューブ指示の有無を示す Bool 値を取得する。

## 1.8. 用法情報

薬剤の用法に関する情報。服用期間や処方数量、用法コード等を含む。

### 1.8.1. 服用日数

#### ■定義

薬剤の服用日数。用法区分が内服定時または内服不均等の場合の、隔日指示も考慮した実質の服用日数。それ以外の用法区分の場合には、服用日数は指定しない(負数を指定)。服用期間と服用日数との整合性は、インターフェースを利用するアプリケーションの責務であり、HL7 メッセージは、インターフェースで指定された服用期間と服用日数の値をそのまま利用する。

#### ■現行対応項目:

- 処方日数または回数 (ORDERYOH\_12)

#### ■インターフェース

```
int IMedicationAdministration.DoseDays [get;]
```

用法区分が内服定時、または内服不均等の場合に、薬品の服用日数を取得する。それ以外の用法区分の場合は、-1 を返す。

### 1.8.2. 処方数量 (1 日量)

#### ■定義

薬剤の 1 日の処方数量。単位は、IMedicationDrug.UnitCodeForDrugPrice で指定される単位コード(薬価)。用法区分が内服定時または内服不均等の場合のみ有効。それ以外の用法区分の場合には指定しない(new double()を指定)。処方数量(1 日量)と処方数量(1 回量)、および処方数量(1 日分の 1 回量の配列)との整合性は、インターフェースを利用するアプリケーションの責務であり、HL7 メッセージは、インターフェースで指定された値をそのまま利用する。

#### ■現行対応項目:

- 処方数量 (RPSETYAK\_8)

#### ■インターフェース

**double IMedicationAdministration.DailyDrugQuantity [get;]**

用法区分が内服定時、または内服不均等の場合に、薬品の1日の処方数量を取得する。値がない場合（内服定時、内服不均等以外の用法区分の場合）は、new double()を返す。Nullインスタンスの場合はdouble.NaNを返す。

### 1.8.3. 処方数量 (1回量)

#### ■定義

薬剤の1回の処方数量。単位は、IMedicationDrug.UnitCodeForDrugPriceで指定される単位コード(薬価)。用法区分が内服定時または内服頓用の場合のみ有効。それ以外の用法区分の場合には指定しない(new double()を指定)。メッセージ作成時、内服定時の場合はDailyUnitDrugQuantitiesの値が使用されるため、このインターフェースで指定した値は使用されない。Nullインスタンスの場合はdouble.NaNを指定する。

#### ■現行対応項目:

- 処方数量 (RPSETYAK\_8)

#### ■インターフェース

**double IMedicationAdministration.UnitDrugQuantity [get;]**

用法区分が内服定時、または内服頓用の場合に、薬品の1回の処方数量を取得する。値がない場合（内服定時、内服頓用以外の用法区分の場合）は、new double()返す。Nullインスタンスの場合はdouble.NaNを指定する。

### 1.8.4. 処方数量 (1日分の1回量の配列)

#### ■定義

薬剤の1日分の1回処方数量の配列。単位は、IMedicationDrug.UnitCodeForDrugPriceで指定される単位コード(薬価)。用法区分が内服定時、内服不均等の場合のみ有効。それ以外の用法区分の場合には指定しない(空の配列を指定)。

#### ■現行対応項目:

- 処方数量 (RPSETYAK\_8)
- 不均等投与 1~10 (RPSETYOH\_14~23)

#### ■インターフェース

**Double[] IMedicationAdministration.DailyUnitDrugQuantities [get;]**

用法区分が内服不均等の場合に、薬品の 1 日分の 1 回の処方数量の配列を取得する。値がない場合（内服不均等以外の用法区分の場合）は空の配列を返す。

#### 1.8.5. 1 日の服用回数（1 日分量）

##### ■定義

薬剤の 1 日の服用回数。用法区分が内服定時または内服不均等の場合のみ有効。それ以外の用法区分の場合には 0 を指定。メッセージ作成時には使用されない。

##### ■現行対応項目:

- 1 日分量 (RPSETYOH\_10)

##### ■インターフェース

`int IMedicationAdministration.NumberOfDoseInADay [get;]`（メッセージ作成時実装不要）

用法区分が内服定時、または内服不均等の場合に、薬品の 1 日の服用回数を取得する。それ以外の用法区分の場合は 0 を返す。

#### 1.8.6. 投薬経路

##### ■定義

投薬経路を表現する投薬経路コード。

ValueSet: Kobe.Pharmacy.ValueSets.RouteOfAdministration  
を使用する。CE 型。

##### ■現行対応項目:

- 対応なし。

##### ■インターフェース

`object IMedicationAdministration.RouteCode [get;]`

投薬経路コードを object として取得する。

ValueSet: Kobe.Pharmacy.ValueSets.RouteOfAdministration で定義されたコード値で、実際の型は CE 型である。

コードの文字列表現を得たい場合には、

```
string RouteOfAdministration.Singleton.ToString(object);
```

を使用する。

コードの表示用文字列を得たい場合には、

```
string RouteOfAdministration.Singleton.DisplayNameOf(object);
```

を使用する。

特定のコードとの等価性を調べる場合には、

```
bool RouteOfAdministration.Singleton.<Get property for a specific  
code>.Equals(object);
```

を使用する。

```
string IMedicationAdministration.RouteCodeText [get;]
```

投薬経路コードのオリジナルテキストを取得する。値がない場合は null を返す。

検討。必要か？

### 1.8.7. 用法区分コード

#### ■定義

用法の種別を表現する用法区分コード。

ValueSet: Kobe.Pharmacy.ValueSets.ClinicalDrugUsageType  
を使用する。CD 型。

#### ■現行対応項目:

- 用法区分 (RPSETYOH\_7)

#### ■インターフェース

```
object IMedicationAdministration.UsageType [get;]
```

用法区分コードを object として取得する。

ValueSet: Kobe.Pharmacy.ValueSets.ClinicalDrugUsageType で定義されたコ  
ード値で、実際の型は CD 型である。

コードの文字列表現を得たい場合には、

```
string ClinicalDrugUsageType.Singleton.ToString(object);
```

を使用する。

コードの表示用文字列を得たい場合には、

```
string ClinicalDrugUsageType.Singleton.DisplayNameOf(object);
```

を使用する。

特定のコードとの等価性を調べる場合には、

```
bool ClinicalDrugUsageType.Singleton.<Get property for a specific
```



```
code>.Equals(object);
```

を使用する。

### 1.8.8. 用法コード

#### ■定義

用法コード。最大2つまで指定可能。

ValueSet: Kobe.Pharmacy.ValueSets.ClinicalDrugUsageCode

を使用する。CD型。

#### ■現行対応項目:

- コード1 (RPSETYOH\_8)
- コード2 (RPSETYOH\_9)

#### ■インターフェース

```
object[] IMedicationAdministration.ArrayOfUsageCode [get;]
```

用法区分コードを object の配列として取得する。

ValueSet: Kobe.Pharmacy.ValueSets.ClinicalDrugUsageCode で定義されたコード値で、実際の型は CD 型である。

コードの文字列表現を得たい場合には、

```
string ClinicalDrugUsageCode.Singleton.ToString(object);
```

を使用する。

コードの表示用文字列を得たい場合には、

```
string ClinicalDrugUsageCode.Singleton.DisplayNameOf(object);
```

を使用する。

特定のコードとの等価性を調べる場合には、

```
bool ClinicalDrugUsageCode.Singleton.<Get property for a specific code>.Equals(object);
```

を使用する。

### 1.8.9. 用法名称

#### ■定義

指定された用法コードから作成される用法名称。

#### ■現行対応項目:

- 用法名称 (RPSETYOH\_11)

#### ■インターフェース

**string IMedicationAdministration.UsageName [get;]**

用法名称を取得する。値がない場合には null を返す。

### 1.8.10. 隔日指示コード

#### ■定義

服用間隔を表す隔日指示を指定するためのコード。

ValueSet: Kobe.Pharmacy.ValueSets.AdministrationRepeatPattern  
を使用する。CD 型。特に指示がない場合は、「毎日」を示すコードを指定する。

#### ■現行対応項目:

- 隔日指示 (RPSETYOH\_29)

#### ■インターフェース

**object IMedicationAdministration.RepeatPatternCode [get;]**

隔日指示コードを object として取得する。

ValueSet: Kobe.Pharmacy.ValueSets.AdministrationRepeatPattern で定義されたコード値で、実際の型は CD 型である。

コードの文字列表現を得たい場合には、

```
string AdministrationRepeatPattern.Singleton.ToString(object);
```

を使用する。

コードの表示用文字列を得たい場合には、

```
string
```

```
AdministrationRepeatPattern.Singleton.DisplayNameOf(object);
```

を使用する。

特定のコードとの等価性を調べる場合には、

```
bool AdministrationRepeatPattern.Singleton.<Get property for a  
specific code>.Equals(object);
```

を使用する。

### 1.8.11. 用法指示コメント

#### ■定義

処方箋内のある特定の用法に対する患者向けコメント。

■ 現行対応項目:

- 指示種別 (RPSETSIJ\_8) (患者)
- 指示コメント (RPSETSIJ\_9)

■ インターフェース

**string IMedicationAdministration.Instruction [get;]**

特定の用法のための患者向け指示コメントを取得する。値がない場合には null を返す。

